

## 重点2 読書活動の充実

### ねらい

子どもたちにとって、読書は、広い世界を知り自分自身の考えを確かめ高め、豊かな情操を育み調和のとれた人間に成長していく上で、大きな価値のあるものです。

心を育て、ものごとに対する興味・関心を呼び起こし、思考力や想像力、判断力や表現力などを豊かに育成するものとして、読書活動を推進します。

### 現状

#### ○ 読み聞かせ

- ・ 幼稚園では、教師やボランティアによる読み聞かせを日常的に行うことで、絵本に興味を持ち始めた園児が、家庭でも保護者に読み聞かせをお願いするなど、読書活動の広がりが感じられます。
- ・ 小学校では、教師やボランティア、図書館司書による読み聞かせが計画的に進められています。また、委員会等で児童が読み聞かせを行うなど、様々な場や機会で行われています。
- ・ 中学校では、年々充実する「読み聞かせ用図書」を活用し、教師が中心となって、適宜読み聞かせを行っています。生徒は、人に読んでもらう心地よさを味わうことによって、普段の読書では得ることのできない作品の楽しみ方などを感じています。
- ・ 親子がふれあう機会を通して、読書活動の活性化のみならず、自分が大切にされていることを実感することで育まれる自己肯定感を高めるために、「親子ふれあい読書」を実施し、家庭での保護者による読み聞かせを積極的に進めようとしている学校もあります。

#### ○ 朝の読書

多くの学校では、毎朝、授業が始まる前の時間を「朝の読書」として、約10分間の読書を行っています。子どもたちからは、「いろいろなジャンルの本に興味を持てるようになった」「図書館をよく利用するようになった」などの声が寄せられています。また、教師からも、「読書の習慣が身につく、学校生活を落ち着いた雰囲気ですぐ子どもが増えた」といった成果があげられています。

四日市市の実施状況					全国の実施状況	
実施校数	平成16年度		平成17・18・19年度		学校数	割合
	学校数	割合	学校数	割合		
小学校 (40校)	40	100%	40	100%	19,041	86.4%
中学校 (22校)	18	81.8%	22	100%	7,488	74.4%

(全国の数値：平成18年度学校図書館の現状に関する調査による)

#### ○ 1か月に1冊以上本を読む子どもの割合 (%)

	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	平均
平成16年度	84.2	85.5	84.3	79.5	82.1	77.7	76.0	81.3
平成17年度	96.4	92.0	84.5	81.8	77.1	78.2	74.6	82.4
平成18年度	98.6	96.8	85.4	83.5	84.4	82.2	80.3	86.2
平成19年度	86.3	87.1	87.0	82.5	87.7	85.2	86.6	86.1

(平成16・19年度は「四日市市子どもの家庭・学校生活実態調査」による)

## 第2章 四日市市が特色として進めてきたもの

### ○ 学校図書館蔵書の状況

学校図書館の現状に関する調査		小学校	中学校
四日市市の蔵書数		338,250 冊	178,508 冊
四日市市の学校図書館標準冊数		380,840 冊	246,960 冊
四日市市の学校図書館の蔵書整備率		88.8%	72.3%
四日市市の学校図書館の図書標準達成校		40 校中 12 校	22 校中 1 校
学校図書館図書 標準冊数の達成率	四日市市	30.0%	4.5%
	全国	40.1%	34.9%

四日市市の数値は平成 19 年度、全国の数値は平成 17 年度（平成 18 年度学校図書館の現状に関する調査による）

### ○ 図書館ボランティア

学校図書館ボランティアの協力を得て、子どもの読書活動の推進を行っています。より多くの大人とのふれあいを重ねることで、子どもの読書活動が活性化されるとともに、開かれた学校づくりにもつながっていくと考えています。

（全国の数値：平成 18 年度学校図書館の現状に関する調査による）

協力を得ている 学校数	全国の状況（平成 17 年度）		四日市市の状況（平成 19 年度）	
	学校数	割合	学校数	割合
小学校	15,334	69.6%	38	95.0%
中学校	1,640	16.3%	6	27.3%

### ○ 「学校図書館いきいき推進事業」による学校図書館司書の配置

平成 17 年度から、学校図書館の活性化と子どもたちの読書活動の推進を図るため、市内の小・中学校 62 校に、週 1 日、専門的な知識を持つ学校図書館司書を配置し、各学校の司書教諭や、図書館担当者、ボランティアの活動を支援しています。当事業の継続に対する各校の主な声を紹介します。

- ・ 司書派遣も 3 年目を迎え、館内整備が進み、新刊本やおすすめ本の紹介、図書館祭りの企画などが充実し、子どもの図書室の利用が増えている。
- ・ 教科学習における調べ学習等に必要な書籍（資料）の適切な準備や、その活用への助言により、学習情報センターとして機能が高まった。
- ・ 司書教諭やボランティアが進める日常的な活動に対し、専門的立場から助言を受けることで、図書館運営の一層の活性化につながった。

### ○ 「学校図書館支援センター推進事業」による学校図書館司書の配置

図書館利用教育の推進や調べ学習の支援のあり方の研究を行うため、協力校（小学校 4 校、中学校 2 校）には、「学校図書館いきいき推進事業」に加えて、週 3 日、学校図書館司書を配置し、子どもの読書活動や調べ学習授業の支援を日常的に行いました。

## 課題（今後の方向）

### ○ 「学校図書館いきいき推進プラン」に基づいた学校図書館活性化の推進

- ・ 読書センターとしてだけでなく、学習情報センターとしての学校図書館の機能を一層高めるための取組を進める必要があります。
- ・ 学校図書館の活性化のために、学校図書館司書の配置を継続し、保護者ボランティアの協力を得て、各学校の司書教諭との協働を一層図っていく必要があります。

### ○ 学校、家庭、地域等一体となった読書活動の推進

- ・ 「四日市市子どもの読書活動推進計画」の方針に掲げられる、「子どもたちの身近に本があり、人がいる風景」を整えるために、「子ども読書の日」の取組など、学校だけではなく、家庭や地域も一緒になって、子どもの読書活動を進めていく必要があります。